

# 金沢市立犀桜小学校



外観

2019(令和元)年に、金沢市の新設町小学校と菊川町小学校との統合により生まれた新しい市立小学校。「学校の顔」となる正面の大きなガラスカーテンウォールからは、前を流れる犀川の桜並木を一望できる。



内観



内装や教室パーティションに、できる限り木材を採用。化粧格子などには県産材や市産材が用いられ、木のぬくもりが感じられる空間となっている。

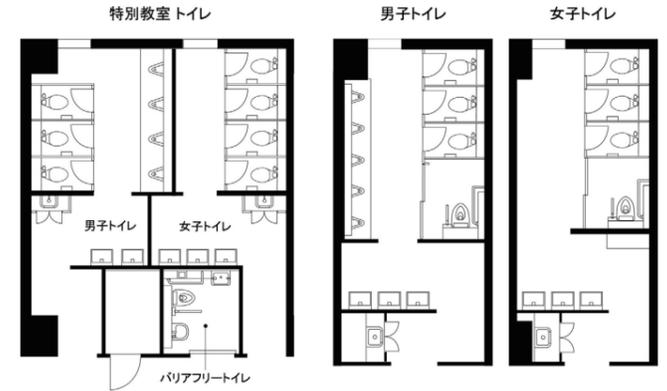


特別教室 トイレ入口

男女トイレの入口はドアレスとし、バリアフリートイレは自動扉仕様。トイレのサインは、学校名の由来でもある「桜」の花びらをモチーフにしたオリジナルデザイン。

## トイレ図面

特別教室のトイレは、教室からの動線を考慮して位置を決定。また、普通教室のトイレ内にも、児童や教職員が安心して利用できるような広めの大便器ブースが設けられている。



## 水まわりの特長

### 建物の特徴

「金沢市立犀桜小学校」は、新設町小学校と菊川町小学校が統合して生まれた新しい市立小学校。学校名の「犀桜(さいおう)」は、学校の前を流れる美しい犀川の流れと河畔の桜並木に由来している。金沢市では「木の文化都市」を目指し、木の持つ優れた特性をまねづくりに活かしていく取り組みが進められており、犀桜小学校においても内装材や教室パーティションに木材を採用。木のぬくもりを見て触れて感じることができ、地元林業への関心を高める学習にも活用されている。また新校舎は、既設の体育館を中心として、大通りから離れた静かな位置に普通教室と特別教室を配置。学校正面のガラスカーテンウォールは、校内からも犀川や桜並木が一望できるファサードとなっている。

### トイレの特長

ダイバーシティの観点から、さまざまな利用者を想定して1Fから3Fの各階にバリアフリートイレを配置。同じフロアに、男女別トイレとバリアフリートイレを1ヶ所に集めた「集中型」と、男女別トイレを普通教室の端と端に配置した「分散型」を整備し、どこからでもアクセスしやすく、好きなトイレを選ぶように配慮されている。さらに、清掃性や衛生面を考慮してすべての便器を洋式化し、ウォシュレットを設置。洗面コーナーには自己発電タイプの自動水栓を採用した。また、災害時には避難所としても使用されるため、体育館のバリアフリートイレは、ペーパーシートやペーパーチェア、フィッティングボードも完備されているほか、外構にはマンホールトイレも用意されている。

### 建築概要

名称	金沢市立犀桜小学校
所在地	石川県金沢市菊川1-2-15
施主	金沢市
設計	建築 株式会社大屋設計 設備 株式会社ムラシマ事務所
施工	建築 みづほ・橘・フレックス特定建設工事共同企業体 電気 アイテックムラモト・東亜特定建設工事共同企業体 給排水 日栄・テック特定建設工事共同企業体 空調 株式会社サリック

竣工年月	2022年3月
敷地面積	8,914.24㎡
建築面積	2,870.00㎡(体育館含む)
延床面積	7,233.36㎡(体育館含む)
構造・階数	鉄筋コンクリート造、鉄骨造・地上4階

### おもなTOTO使用機器

パブリックコンパクト便器・フラッシュバルブ式:CFS494系  
ウォシュレットPS (擬音装置「音姫」付きエコリモコン):TCF552\*系  
棚付二連紙巻器:YH701/自動洗浄小便器:UFS900JCS  
ハイドロセラフロアPU:AB690BR/壁掛ハイバック洗面器:LSB135AN



特別教室  
バリアフリートイレ

避難所としての利用時を想定し、体育館から近い位置にバリアフリートイレを配置。避難所エリアと学校エリアをシャッターで区画することで、それぞれの運営を可能にしている。校内にはエレベーターも設置されている。



男子トイレ 全体

明るい光が差し込む、清潔感あふれる空間。内装は男女の色分けをせず、淡いナチュラルな木目調のテイストでやさしい雰囲気に仕上げられている。



男子トイレ  
小便器コーナー・  
大便器ブース

小便器コーナーは、床の清掃性に優れた低リップタイプの壁掛自動洗浄小便器とハイドロセラフロアPUを採用。大便器は、ウォシュレットPSを設置している。



女子トイレ 洗面コーナー

清掃性や衛生面、節水性を考慮し、トイレ内のすべての手洗いに自己発電タイプの自動水栓を採用。水の流れを利用して発電するため電源が不要で、停電時などにも使用できる。



女子トイレ 広めブース

特別教室のバリアフリートイレとは別に、各フロアの男女トイレに広めの大便器ブースを1ヶ所ずつ設置。ゆったりとした空間設計で、支援が必要な児童やけがなどで松葉杖を使用する児童などが安心して利用できる。



体育館トイレ

既設体育館に新設されたトイレ。災害時に避難所となることや、さまざまな利用者を想定してバリアフリートイレの設置や男性トイレの大便器ブースにペーパーチェアを設けるなどの配慮がなされている。